# ゼミノート #9

# Quotient Stacks

## 七条彰紀

## 2019年1月30日

## 目次

1	Definitions	1
1.1	$\mathcal{G} ext{-torsor}$	1
1.2	Quotient Stack	3
2	Aim of This Session	4
3	準備	4
3.1	Definition of $\mathbf{Isom}(X,Y)$	4
3.2	Propositions	5
3.3	Representability of Diagonal Morphism	6
4	証明	7
4.1	$\Delta$ is Representable	7
4.2	[X/G] has an Atlas	8

Algebraic stack の具体例として Quotient stack を扱う. この例を通じて特に,「diagonal morphism  $\Delta\colon \mathfrak{X}\to \mathfrak{X}\times_S \mathfrak{X}$  が表現可能とはどういうことか」ということを考えたい. 参考文献として [2] 1.3.2, [1] Example 4.8, [3] Example 8.1.12 を参照する.

# 1 Definitions

## 1.1 $\mathcal{G}$ -torsor

## 定義 1.1 (Equivariant Morphism)

一般の site ::  $\mathbf{C}$  をとり、 $\mathcal{G}$  を  $\mathbf{C}$  上の sheaf of groups とする. sheaf ::  $\mathcal{F}$  と、 $\mathcal{G}$  からの左作用  $\alpha$ :  $\mathcal{G} \times \mathcal{F} \to \mathcal{F}$  を組にして  $(\mathcal{F}, \alpha)$  と書く、 $\mathcal{G}$  からの左作用を持つ sheaf の間の射  $(\mathcal{F}, \alpha) \to (\mathcal{F}', \alpha')$  とは、sheaf の射

 $f: \mathcal{F} \to \mathcal{F}'$  であって以下が可換図式であるもの.

$$\begin{array}{ccc} \mathcal{G} \times \mathcal{F} & \xrightarrow{\operatorname{id} \times f} \mathcal{G} \times \mathcal{F}' \\ \overset{\alpha}{\downarrow} & & & \downarrow^{\alpha'} \\ \mathcal{F} & \xrightarrow{f} & \mathcal{F}' \end{array}$$

このような射 f は G-equivariant morphism (G 同変写像) と呼ばれる.

#### 定義 **1.2** (*G*-Torsor, [3] 4.5.1, [4] Tag 04UJ)

一般の site ::  $\mathbf{C}$  をとり、 $\mathcal{G}$  を  $\mathbf{C}$  上の sheaf of groups とする。 $\mathbf{C}$  上の  $\mathcal{G}$ -torsor とは、 $\mathbf{C}$  上の sheaf ::  $\mathcal{P}$  と 左作用  $\alpha$ :  $\mathcal{G} \times \mathcal{P} \to \mathcal{P}$  の組であって、次を満たすもの。

T1 任意の  $X \in \mathbf{C}$  について cover of  $X :: \{X_i \to X\}$  が存在し, $\mathcal{P}(X_i) \neq \emptyset$ . T2 写像

$$\langle \operatorname{pr}_2, \alpha \rangle \colon \mathcal{G} \times \mathcal{P} \to \mathcal{P} \times \mathcal{P}; \quad (p, g) \mapsto (p, \alpha(g, p))$$

は同型. ただし、 $\langle \mathrm{pr}_1, \alpha \rangle$  は  $\mathcal{P} \times \mathcal{P}$  の普遍性と  $\mathrm{pr}_1, \alpha \colon \mathcal{P} \times \mathcal{G} \to \mathcal{P}$  から得られる射である.

 $\mathcal{G}$ -torsor の射は  $\mathcal{G}$ -equivariant morphism である.

 $(\mathcal{P},\alpha)$  が  $\mathcal{G}$ -torsor ::  $(\mathcal{G},m)$  (ただし  $m:\mathcal{G}\times\mathcal{G}\to\mathcal{G}$  は積写像)と同型である時  $\mathcal{G}$ -torsor ::  $(\mathcal{P},\alpha)$  は自明 (trivial) であると言う.

#### 注意 1.3

 $\mathcal{G}$ , $\mathcal{P}$  の両方が scheme で表現できる場合には, $\mathcal{G}$ -torsor は principal bundle と呼ばれる.group scheme に対応する representable sheaf が

#### 注意 1.4

任意の  $X \in \mathbf{C}$  について  $\mathcal{P}(X) \neq \emptyset$  である場合には、条件 T2 は作用  $\alpha$  が単純推移的であることを意味する. すなわち、任意の  $p,q \in \mathcal{P}(X)$  についてただ一つの  $g \in \mathcal{G}(X)$  が存在し、 $q = g * q = \alpha(g,p)$  となる.

#### 補題 **1.5** ([4] Tag 03AI, [3] 4.5.1)

- (i)  $\mathcal{G}$ -torsor ::  $(\mathcal{P}, \alpha)$  が自明であることと, $\mathcal{P}$  が global section  $^{\dagger 1}$  を持つことと同値.
- (ii)  $\mathcal{P}(X) \neq \emptyset$  ならば制限  $\mathcal{P}|_X$  は trivial.
- (iii) 同型  $\mathcal{G}|_X \to \mathcal{P}|_X$  と  $\mathcal{P}(X)$  の元は一対一に対応する.

(証明).  $(\mathcal{P}, \alpha)$  が自明であると仮定すると、次のように global section が得られる.

$$1 \to \mathcal{G} \cong \mathcal{P}; \quad * \mapsto e$$

ただしeは $\mathcal{G}$ の単位元である.

$$\mathcal{G} \to \mathcal{P}; \quad g \mapsto \alpha(g, p)$$

という射が定義できる. これは定義にある条件 T2 から同型である.

<sup>†1</sup> 前層の圏 **PSh(C**) の terminal object から  $\mathcal{P}$  への射のこと ([4] Tag 06UN). **PSh(C**) の terminal object は自明群で定まる constant sheaf である.

 $s \in \mathcal{P}(X)$  をとれば、scheme の任意の射  $\phi: U \to X$  について

$$1 \to (\mathcal{P}|_X)(U) = \mathcal{P}(U); \quad * \mapsto \phi^* s$$

のように global section ::  $1 \to \mathcal{P}|_X$  が定まる.

#### 系 1.6

 $\mathcal{G}$ -torsor の任意の射は同型.

(証明). isomorphism は etale local on the target なので (TODO), 条件 T1 にあるような etale cover  $\{\phi_i\colon U_i\to X\}$  を取れば主張は「trivial  $(\phi_i)^*\mathcal{G}$ -torsor の射は同型」という命題に帰着される.

 $\mathcal{G}$  の単位元(射  $e: 1 \to \mathcal{G}$  の像)を e と書くことにすると、射  $(\phi_i)^*\mathcal{G} \to (\phi_i)^*\mathcal{G}$  は、 $g \mapsto g \cdot f(e)$  と書ける。  $f(e) \in (\phi_i)^*\mathcal{G}$  も群の元なので逆元が存在する。なので  $g' \mapsto g' \cdot f(e)^{-1}$  とすれば逆射が作れる。

## 1.2 Quotient Stack

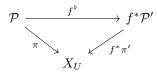
#### 定義 1.7 (Quotient Stack, [3] Example 8.1.12)

X :: algebraic space, G :: smooth group scheme over S, acting on X とする. すなわち左作用  $\alpha$ :  $G \times X \to X$  が存在するものとする. この時, fibered category ::  $[X/G](\to \operatorname{ET}(S))$  を以下で定める.

Object 以下の3つ組.

- S-scheme :: U,
- $G_U(:= G \times_S U)$ -torsor on  $ET(U) :: \mathcal{P}$ ,
- $G_U$ -torsor の射  $\pi: \mathcal{P} \to X_U (:= X \times_S U)$ .

Arrow 射  $(U, \mathcal{P}, \pi) \to (U', \mathcal{P}', \pi')$  は二つの射の組  $(f: U \to U', f^{\flat}: \mathcal{P} \to f^*\mathcal{P}')$  であって,以下が可換となるもの.



 $\pi$  と  $f^*\pi'$  の codomain, すなわち  $X_U$  と  $f^*X_{U'}$  が一致していることに注意.

fibration は  $(U, \mathcal{P}, \pi) \mapsto U, (f, f^{\flat}) \mapsto f$  で与えられる.

#### 注意 1.8

任意の  $[U \to S] \in \mathbf{Sch}/S$  について, $G_U (:= G \times U)$  は群になる.単位セクション  $e_U : 1 \to G_U$ , $e : 1 \to G$  の pullback から得られる.積  $m_U$  なども同様.特に射影  $\mathrm{pr}_U : G_U \to U$  は,smooth morphism  $:: G \to S$  の pullback なので smooth.

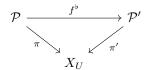
#### 補題 1.9

S:: scheme, X:: algebraic space, G:: smooth group scheme over S, acting on X とする. Quotient stack :: [X/G] は stack in groupoids である.

(証明). stack であることは sheaf の貼り合わせが可能であることに拠る. 詳しくは [3] 4.2.12, [4] Tag 04UK を参照せよ. [X/G] が category fibered in groupoids(CFG) であることを確かめる. これは恒等射上の

[X/G] の射が同型射であることを確かめれば良い.

 $U \in \mathrm{ET}(S)$  を固定し、射  $(\mathrm{id}_U, f^{\flat}): (U, \mathcal{P}, \pi) \to (U, \mathcal{P}', \pi')$  を考える. 定義から、次が可換である.



## 2 Aim of This Session

#### 定理 2.1

X :: algebraic space, G :: smooth group scheme over S, acting on X とする. Quotient Stack :: [X/G] は Artin stack である.

## 3 準備

## 3.1 Definition of $\mathbf{Isom}(X, Y)$

最初に  $\mathfrak X$  の cleavage を選択せずとも出来る **Isom** の構成を述べる. 後の注意で特に splitting を選択した 場合の構成も述べておく.

### 定義 3.1 ( $\mathbf{Isom}(X,Y)$ )

stack とは限らない fibration ::  $\mathfrak{X} \to \mathbf{B}$  と, $U \in \mathbf{B}$  及び U 上の対象  $X,Y \in \mathfrak{X}$  をとる.この時,CFG over  $\mathbf{B}/U$ ::  $\mathbf{Isom}(X,Y)$  を以下のように定める.

Object. 以下の 4 つ組.

- $\mathbf{B}/U$  の対象  $f: V \to U$ .
- $f \circ f$  cartesian lifting ::  $f^*X \to X, f^*Y \to Y$ .
- 同型  $\phi \colon f^*X \to f^*Y$ .

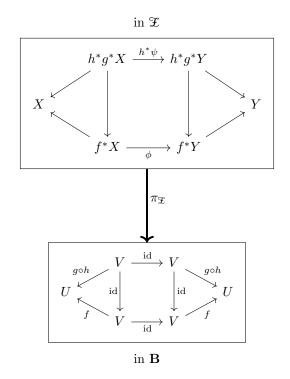
Arrow. 射

$$(V \xrightarrow{f} U, f^*X \to X, f^*Y \to Y, f^*X \xrightarrow{\phi} f^*Y) \to (W \xrightarrow{g} U, g^*X \to X, g^*Y \to Y, g^*X \xrightarrow{\psi} g^*Y)$$

は,以下の2つからなる.

- $\mathbf{B}/U$  の射  $h: V \to W$  (したがって  $q \circ h = f$  が成立),
- 射  $h^*\psi, \phi$  の間の canonical な同型射  $(h^*g^*X \to f^*X, h^*g^*Y \to f^*Y)$ .

 $(h^*g^*X \to f^*X, h^*g^*Y \to f^*Y)$  を選択することで、 $h^*g^*X \to X, h^*g^*Y \to Y$  が定まる。また Triangle Lifting により  $h^*\psi$  も定まる。以下の図式を参考にすると良い。



fibration は次のように与えられる.

 $\pi\colon \mathbf{Isom}(X,Y) \to \mathbf{B}/U$ Objects:  $(f\colon V\to U, f^*X, f^*Y, \phi\colon f^*X\to f^*Y) \mapsto f$ Arrows:  $(h\colon V\to W, h^*g^*X\to f^*X, h^*g^*Y\to f^*Y) \mapsto h$ 

#### 注意 3.2

 $\mathfrak{X} \to \mathbf{B}$  の splitting を選んだ場合には  $\mathbf{Isom}(X,Y)$  の定義は次のように簡単に成る.

Object.  $\mathbf{B}/U$  の対象  $f\colon V\to U$  と同型  $\phi\colon f^*X\to f^*Y$  の組. Arrow. 射  $(f,\phi)\to (g,\psi)$  は, $g\circ h=f$  を満たす  $\mathbf{B}/U$  の射 h.

以下では  $\mathbf{Isom}(X,Y)$  が algebraic space(これは sheaf)と同型であるかどうかを考えるので、こちらの定義だけを覚えていても問題はない.

## 3.2 Propositions

### 補題 3.3

任意の  $U \in \mathbf{B}$  と  $X, Y \in \mathfrak{X}(U)$  について、 $\mathbf{Isom}(X,Y)$  は category fibered in sets.

(証明). 恒等射上の射は恒等射しかないことを確かめれば良い.  $\mathbf{Isom}(X,Y)$  の射の定義から、恒等射上の射は次の形になっている.

$$(id_U, f^*X \to f^*X, f^*Y \to f^*Y): (f, f^*X, f^*Y, \phi) \to (f, f^*X, f^*Y, \psi)$$

 $f^*X \to f^*X, f^*Y \to f^*Y$  は Triangle Lifting から得られる canonical なものなので、恒等射である.

 $\mathfrak X$  :: stack の場合は( $\mathfrak X \to \mathbf B$  の splitting を選べば) $\mathbf{Isom}(X,Y)$  は sheaf になる.

#### 補題 3.4

一般の site ::  $\mathbb{C}$  と CFG ::  $\mathfrak{X} \to \mathbb{C}$  をとる. さらに  $\mathfrak{X}$  は split fibered category であるとする. 以下の二つは 互いに同値.

- (i) X は prestack である.
- (ii) 任意の  $X,Y \in \mathfrak{X}$  について  $\mathbf{Isom}(X,Y)$  の fiber は sheaf である.

(証明). (TODO: 出典)

## 3.3 Representability of Diagonal Morphism.

#### 注意 3.5

以下, scheme S を固定し、特に断らない限り big etale site ::  $\mathrm{ET}(S)$  上の stack in groupoids のみ考える.

#### 補題 3.6

 $\mathfrak X$  :: stack in groupoids on  $\mathbf C(=\mathrm{ET}(S))$  とする. この時,  $\Delta\colon \mathfrak X\to \mathfrak X\times_S\mathfrak X$  が表現可能であることと,任意 の  $U\in \mathbf C$  と任意の  $X,Y\in \mathfrak X(U)$  について  $\mathbf{Isom}(X,Y)$  が algebraic space であることは同値.

(証明). x,y:  $\mathbf{Sch}/U(=U) \to \mathfrak{X}$  を、2-Yoneda Lemma により得られる  $X,Y \in \mathfrak{X}(U)$  に対応する射とする $\dagger^2$ .

以下の図式が pullback diagram であることから分かる.

 $\operatorname{pr}_U$ 

$$\begin{array}{c|c} \mathbf{Isom}(X,Y) & \xrightarrow{\mathrm{pr}_U} & \mathbf{Sch}/U \\ & \downarrow^{\mathrm{pr}_{\mathfrak{A}}} & & \downarrow^{x \times y} \\ & \mathfrak{A} & \xrightarrow{\Lambda} & \mathfrak{A} \times_S \mathfrak{A} \end{array}$$

任意の射  $\mathbf{Sch}/U \to \mathfrak{X} \times \mathfrak{X}$  が  $x \times y$  の形で表されることは、 $\mathfrak{X} \times \mathfrak{X}$  の普遍性から得られる.

まず、射と自然同型を定義する.  $\mathbf{Isom}(X,Y)$  から伸びる射は次の関手である. ただし  $\xi=(f\colon V\to U,f^*X,f^*Y,\phi\colon f^*X\to f^*Y),\eta=(g\colon W\to U,g^*X,g^*Y,\psi\colon g^*X\to f^*Y)$  とした.

 $\mathbf{Sch}/U$ 

 $\mathbf{Isom}(X,Y) \rightarrow$ 

自然同型 a は次で定める.

<sup>†2</sup> 例えばxは $f \in \mathbf{Sch}/U$ を cartesian lifting  $f^*X$  へ写す.

$$a_{\xi} \colon \quad ((x \times y) \operatorname{pr}_{U})(\xi) \quad \to \quad (\Delta \operatorname{pr}_{\mathfrak{X}})(\xi)$$
$$(f \colon V \to U, f^{*}X, f^{*}X, \alpha) \quad \mapsto \quad (\operatorname{id}_{f^{*}X}, \phi)$$

 $\mathbf{Isom}(X,Y)$  が pullback であることは、 $\mathbf{Isom}(X,Y)$  が普遍性を持つことを通して確かめる. (TODO)

## 4 証明

# 4.1 $\Delta$ is Representable.

示した補題から、任意の  $U \in \mathbb{C}$  と任意の  $G_U$ -torsor ::  $\mathcal{P}_1, \mathcal{P}_2 \in \mathfrak{X}(U)$  について  $\mathbf{Isom}(\mathcal{P}_1, \mathcal{P}_2)$  が algebraic space であることは同値である.これは次のようにして自明な場合に帰着できる.

#### ■ $\mathcal{P}_1, \mathcal{P}_2$ が自明な場合に帰着させる.

#### 補題 4.1 ([3] Exc 5.G)

U :: scheme をとる. sheaf on  $\mathrm{ET}(U)$  ::  $\mathcal{F}$  と etale surjective morphism ::  $V \to U$  に対し、 $V \times_U \mathcal{F}$  が algebraic space ならば、 $\mathcal{F}$  は algebraic space.

#### 補題 4.2

 $X,Y \in \mathfrak{X}(U)$  と  $v:V \to U$  について

$$V \times_U \mathbf{Isom}(X, Y) \cong \mathbf{Isom}(v^*X, v^*Y).$$

(補題 4.1 の証明).  $\mathcal{F}' := (V \times_U \mathcal{F}) \times_V (V \times_U \mathcal{F})$  とおく.

まず diagonal morphism の表現可能性を考える. pullback lemma から次が分かる.

$$(V \times_{U} \mathcal{F}) \times_{V} (V \times_{U} \mathcal{F}) \cong (V \times_{U} \mathcal{F}) \times_{U} \mathcal{F} \cong V \times_{U} (\mathcal{F} \times_{U} \mathcal{F}).$$

このことから、 $\Delta: \mathcal{F} \to \mathcal{F} \times_U \mathcal{F}$  を  $V \to Y$  で pullback したものが  $\Delta': \mathcal{F}' \to \mathcal{F}' \times \mathcal{F}'$  だと分かる. atlas の存在は次のように分かる.  $A \to \mathcal{F}'$  を  $\mathcal{F}'$  の atlas とする.

$$\begin{array}{ccc} A & \longrightarrow & \mathcal{F}' & \longrightarrow & \mathcal{F} \\ \downarrow & & \downarrow & \\ V_{\text{etale, suri}} & U \end{array}$$

 $V \to Y$  が etale surjective なので  $\mathcal{F}' \to \mathcal{F}$  も etale surjective. 今  $A \to \mathcal{F}'$  が etale surjective なので、併せて  $A \to \mathcal{F}$  が etale surjective と分かる.

(補題 4.2 の証明). 定義を変形するだけである.

$$\begin{split} &(V\times_{U}(\mathbf{Isom}(X,Y)))(W)\\ =&V(W)\times_{U(W)}\mathbf{Isom}(X,Y)(W)\\ =&\{(w\colon W\to V,f\colon W\to U,\rho\colon f^{*}X\xrightarrow{\cong}f^{*}Y)\mid u\circ v=f\}\\ =&\{(w\colon W\to V,\rho\colon w^{*}u^{*}X\xrightarrow{\cong}w^{*}u^{*}Y)\}\\ =&\mathbf{Isom}(v^{*}X,v^{*}Y)(V) \end{split}$$

 $\mathcal{P}_1, \mathcal{P}_2$  が自明に成る etale cover ::  $\mathcal{V}^{\dagger 3}$  をとり、 $v: V = \bigsqcup_{V \in \mathcal{V}} V \to X$  とすれば、 $v^* \mathcal{P}, v^* \mathcal{P}_2$  は自明な  $G_U$ -torsor となる.こうして  $\mathcal{P}_1, \mathcal{P}_2$  が自明な場合に議論を帰着させることが出来る.

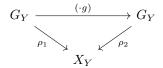
同型  $G_Y \cong \mathcal{P}_1, G_Y \cong \mathcal{P}_2$  を固定する. これらと  $\pi_1, \pi_2$  を合成して

$$\rho_1 \colon G_Y \to X_Y, \quad \rho_2 \colon G_Y \to X_Y$$

を得る.

**Isom**( $(G_Y, \rho_1), (G_Y, \rho_2)$ ) がどのような sheaf か考える. trivial torsor の任意の自己同型  $\phi \colon G_Y \to G_Y$  は、これが equivariant であることから、 $\phi(e)$  の左からの積になっている。逆に任意の  $G_Y$  の元を取れば左からの積が自己同型になるから、集合  $\mathbf{Isom}((G_Y, \rho_1), (G_Y, \rho_2))$  は  $G_Y$  の部分集合である。そこで、 $g \in G_Y$  (i.e.  $g \colon 1 \to G_Y$ ) から得られる自己同型  $(\cdot g) \colon G_Y \to G_Y$  が満たすべき条件を考える。

[X/G] の定義から、次が可換である.



 $(\cdot g)$  は equivariant だから、この図式が可換であることは  $\rho_1(e)=\rho_2(g)$  と同値である.したがって

Isom( 
$$(G_Y, \rho_1), (G_Y, \rho_2)$$
 )(V)  
={ $g \in G_Y(V) \mid \rho_1(e) = \rho_2(g)$ }  
={ $(g, x) \in G_Y(V) \times X_Y(V) \mid (\rho_1(e), \rho_2(g)) = (x, x)$ }

これは次のように、fiber product で表現出来る.

射  $G_Y \to X_Y \times_Y X_Y$  は  $g \mapsto (\rho_1(e), \rho_2(g))$  である.この図式が pullback diagram であることは  $\mathbf{Isom}((G_Y, \rho_1), (G_Y, \rho_2))$  が algebraic space であることを意味している.

## 4.2 [X/G] has an Atlas.

射  $a: X \to [X/G]$  を trivial  $G_X$ -torsor  $:: (G_X, m_X) \in [X/G](X)$  に(2-Yoneda Lemma によって)対応 する射とする.この射 a が atlas であることを示す.a が representable であることは  $\Delta$  が representable で あることから分かる.a が smooth, surjective であることを示す.

以下の pullback diagram を考える.

$$\begin{array}{ccc} \mathbf{P} & \longrightarrow X \\ \downarrow & \mathrm{p.b.} & \downarrow (G_X, m_X) \\ Y & \xrightarrow{(\mathcal{P}, \pi)} [X/G] \end{array}$$

<sup>†3</sup> i.e.  $\forall V \in \mathcal{V}, \ \mathcal{P}_1(V), \mathcal{P}_2(V) \neq \emptyset.$ 

ただし  $Y \to [X/G]$  は a と同様に  $(\mathcal{P},\pi) \in [X/G](Y)$  に対応する射である.  $\mathcal{P}$  は作用  $\alpha \colon G_Y \times \mathcal{P} \to \mathcal{P}$  を持つとする.

この時、 ${\bf P}$  は sheaf として  ${\cal P}$  と同型である.これは次のように同型が得られる.まず  ${\bf P}(U)$  は以下の 3 つの組の集合である.

- $x: U \to X$ ,
- $y: U \to Y$ ,
- $\rho: x^*(G_X, m_X) \xrightarrow{\cong} y^*(\mathcal{P}, \pi)).$

ただしx,yについて以下が可換.

$$\begin{array}{ccc} U & \xrightarrow{x} X \\ y \downarrow & & \downarrow \\ Y & \longrightarrow S \end{array}$$

上のような x,y を一つとり,  $x_0,y_0$  と名前を付ける.すると  $(y_0)^*G_Y=(x_0)^*G_X$  となる. $\mathbf{P}(U)$  の元  $(x,y,\rho)$  が存在するならば, $x^*X=y^*X_Y$  ゆえに x,y は上の可換図式を満たすことに注意せよ. 次のように同型を定める.

$$\begin{array}{ccc} \mathbf{P}(U) & \to & \mathcal{P}(U) \\ (x, y, \rho) & \mapsto & \rho_U(e) \\ (x_0, y_0, (y_0)^* \alpha(-, p)) & \hookleftarrow & p \end{array}$$

 $(f^*\mathcal{P})(U) = \mathcal{P}(U)$  は  $f^*$  の colomit を用いた定義から得られる.

最後に  $\mathcal{P} \to Y$  が etale surjective であることを確かめる.  $\mathcal{P}(Y_i) \neq \emptyset$  となる Y の cover ::  $\{Y_i \to Y\}$  をとる.  $\mathcal{P}|_{Y_i}$  は trivial torsor ::  $G_{Y_i}$  と同型となる.  $\operatorname{pr}_{Y_i}: G_{Y_i} \to Y_i$  は smooth surjective であり、smooth、surjective はどちらも etale local on target な性質なので、 $\mathcal{P} \to Y$  も etale、surjective. (ついでに  $\mathcal{P}$  :: algebraic space も分かる.)

# 参考文献

- [1] Pierre Deligne and David Mumford. The irreducibility of the space of curves of given genus. *Publications Mathématiques de l'Institut des Hautes Études Scientifiques*, Vol. 36, No. 1, pp. 75–109, Jan 1969.
- [2] G. Laumon and L. Moret-Bailly. *Champs algébriques*. Ergebnisse der Mathematik und ihrer Grenzgebiete. 3. Folge (A Series of Modern Surveys in Mathematics). Springer Berlin Heidelberg, 1999.
- [3] Martin Olsson. Algebraic Spaces and Stacks (American Mathematical Society Colloquium Publications). Amer Mathematical Society, 4 2016.
- [4] The Stacks Project Authors. Stacks Project. https://stacks.math.columbia.edu, 2018.